

令和7年度 第2回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和7年9月3日（水）10時30分～11時30分

場所：八尾水道センター 4階大会議室

【出席者】

（委員）瀧浪貞子：京都女子大学 名誉教授（副会長）

吉川真司：京都大学 名誉教授

網 伸也：近畿大学 文芸学部 教授

長友朋子：立命館大学 文学部 教授

箱崎和久：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部長

中野真也：曙川東小学校区まちづくり協議会

（オブザーバー）大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ 大澤嶺技師

（事務局）観光・文化財課 西澤課長、藤井課長補佐、河村副主査

（傍聴）0名

【欠席委員】菱田哲郎：京都府立大学 文学部 教授（会長）

清野孝之：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部長

【次第】

1 開会挨拶（観光・文化財課長）

2 議事内容

案件1：整備について

- ・ガイダンス施設の基本設計案
- ・七重塔模型の検討

【ガイダンス施設の基本設計案について】

〔事務局報告内容〕

- ・7月18日付で文化庁より今期の史跡整備に係る現状変更の許可を得た。
- ・法人からの寄附を七重塔模型の制作等への活用を検討している。
- ・7月下旬にガイダンス施設の基本・実施設計の事業者が決定した。
- ・8月上旬、太宰府市に七重塔模型とガイダンス施設の視察を行った。
- ・8月下旬に今年度の整備工事の入札を終え、業者と契約に向けた協議を進めている。
- ・奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、凝灰岩切石の保存等について協議した。今後、調査担当者が研究所主催の研修を受講したのち、保存処理の対応を進める予定。
- ・ガイダンス施設の基本設計案を作成した。
- ・スケジュールの変更点について説明（一般公開・七重塔模型・瓦だまり等）

【委員意見】

○ガイダンス施設の各プランの大きな違いは为什么呢。由義寺を全く知らない人も来られますし、屋根構造や瓦に詳しい方も来られるので、正確なものを造る必要があります。

→プラン1では、建物東側のスロープに瓦の復元展示を行います。プラン2は、建物南側の下屋に本瓦葺きを施します。プラン3は、屋根全体を本瓦葺きにするものです。いずれも、瓦の葺き方（本瓦葺き）について知ってもらうことを意識した仕様で、展示物としての性格を兼ねています。

○本瓦葺きにする意味は为什么呢。

→建物の視認性を高めることや本瓦葺きを知ってもらうための展示物としての性格をもっています。
○本瓦葺きにこだわるならば、垂木や組物の表現も検討してはどうでしょうか。建物南側では屋根を下から、東側では上から見下ろすことができるので、屋根構造がよくわかると思います。鬼瓦を展示してもよいかも知れません。屋根の端の仕舞が難しいため、検討が必要です。

→検討します。

○スロープ手すり壁の瓦展示では、瓦を葺く過程を表現してはどうでしょうか。鴻臚館跡で瓦葺きの過程を表現した展示を行っています。また、イベントで瓦を葺くなどしてはどうでしょうか。

→検討します。

○雨水がそのまま、展示瓦にあたるとは思いますが大丈夫ですか。

→木材以外の部材を検討しており、瓦の表面も加工を施しますので問題ないと考えています。

○断熱効果に影響はありますか。

→さほど関係はないと考えています。

○プラン1、2の良いところを合わせてみてはどうでしょうか。

○プラン1が良いと考えます。南や東から見て、建物が視認しやすいです。

○プラン1がよく、出土している主要な瓦を並べて、展示空間としてした方がよいでしょう。

○費用面でプラン1、2に差はありますか。

→プラン1、2とも似た金額になります。

○由義寺、称徳天皇、道鏡の認知が低い印象があります。ガイダンス施設ができたからといって認知度がいきなり上がるとはいえないので、PRをすすめてほしいです。

→検討します。

【ガイダンス施設の展示の設計業務について】

〔事務局報告内容〕

- ・ 前回の審議会での報告同様に、切石階段の復元に伴い、展示内容の再検討が必要となった。
- ・ 展示業務については、令和7年度は基本設計に留め、審議会での意見聴取後、展示コンセプトについて新たな調査・研究成果をふまえ見直すことにした。
- ・ 実施設計は、令和8年度に実施する。
- ・ 200万程度の経費で委託を検討しているが、業務を分割し、見積を再徴取した結果、人件費高騰等により500万円弱が最低価格となる。このような状況から、設計費の変更について大阪府に相談している。この金額での実施について意見を伺いたい。

〔大阪府意見〕

○市から相談を受けています。人件費高騰や整理作業の進捗による金額の変更とのことですが、200万程度の設計費では厳しいと考えています。この金額の印象について委員の意見をお伺いしたい。

〔委員意見〕

○具体的にかかる経費はなんですか。

→材料費や人件費です。また、設計者不足によります。

○寄付など収入の確保はできませんか。

→模型についてはクラウドファンディングを実施する予定です。展示設計は調整しています。

○由義寺を普及啓発できるより良い展示をする必要があります。史跡の大事な部分になりますので、

上乘せが必要です。今後、この史跡が市民の憩いの場、学習の場として活用されるということを意識して十分な検討の上、進めていくことが必要です。

○由義寺跡は、大阪の宝として活用されていくものですので、安く済ませてよいのでしょうか。史跡整備に伴うガイダンス施設の設計は何度もできるものではありませんので、しっかりと納得したものを造ってほしいです。

○設計費の調整は、丁寧な説明が必要になってくると思います。

【塔模型のアンケート結果について】

[事務局報告内容]

- ・七重塔模型について他市にアンケートを行った。
- ・各地の事例に基づき市の方針について報告した。

[委員意見]

○FRP はどのような素材ですか。

→強化プラスチックです。

○事務局はどの素材で進める予定ですか。また、FRP とセラミックでは費用は全く異なりますか。

→屋外展示ですので、木製以外で考えています。FRP に比べ、セラミックの方が高いです。

○大きさはどのくらいの規模で考えていますか。材質により金額が変わり、1/20 と 1/10 でも金額が変わらないことがあるので、材質の選定が重要になります。広渡廃寺の模型は重量感を感じさせてくれます。陶板で造る場合、どこまで復元できるのか確認しなければなりません。

→1/20 で考えています。3 m程度になります。材質は検討します。

○模型の検討は令和8年度となっていますが、現在、どのような会社に相談していますか。

→検討は本年度に行い、素材等も決めていきます。陶板ではオーツカオーミに、そのほかスタジオ十三、丹青社に相談しています。

○FRP に比べ、セラミックは本物のように見えます。模型製作後に現物を3Dスキャンして、端末で操作しながら建物の構造を学ぶことができる手法を検討してはどうでしょうか。

○設計図面を読み込んでおけば3Dで閲覧することができます。

○1/10の方がよいと思います。塔を見上げて屋根の構造を知ってもらえると思います。

○外で見ると小さく感じるがあるので、大きいものを造ってほしいです。

○地元としては、1/10等大きいものを設置してほしいです。

○塔模型を近くで見学するイベントを実施してはどうでしょうか。

【その他確認事項】

- ・次回、瓦だまりの復元整備及び管理方法等の検討や階段の復元方法の修正について議論。
- ・随時各委員の専門分野の課題は適宜相談する。
- ・本審議会の議事内容について、会長に報告する。

観光・文化財課課長挨拶にて閉会